

# なでしこ通信



令和5年6月10日発行

vol.185

三重県済生会明和病院 なでしこ 〒515-0312 三重県多気郡明和町大字上野435

TEL・FAX : 0596-53-0010 Eメール : nadeshiko@meiwa-saiseikai.jp ※重症心身障害児(者)に特化しているため旧名称を記載しております

## 新たなスタート!

### ～ 度会特別支援学校入学式 ～



4月11日(火)、満開の桜と入れ替わるように色とりどりの花が咲き誇る中、度会特別支援学校の入学式が行われました。なでしこでは高等部に進学するさきさん、小学部に入学するはるとさんの2名が新たな門出を迎えました。

訪問教育を受けているさきさんは学校での入学式に参加し、新しい先生やクラスメイトの皆さんと緊張しながら写真撮影を行いました。「笑顔が一杯で安心できる学校生活を送れるように」という校長先生の話聞きながら、期待に胸を膨らませていたこと

と思います。

はるとさんはなでしこで入学式を行いました。晴天の下、この日のために用意されたスーツを着て、式に臨みました。式には学校の先生、ご家族の皆様、なでしこの職員が参列しました。初めての校歌、校長先生の挨拶……明るくかつ厳かな雰囲気です。式は進みましたが、緊張と期待が入り混じる中、校長先生に名前を呼ばれ、ご家族全員で返事をした時、はるとさんは堂々とした姿でした。

さきさん、はるとさん、ご入学おめでとうござ

います。私たちなでしこ職員は先生方と連携し、楽しく充実した学校生活を送れるようサポートしていきたいと思っています。

(指導員：斎田・一星)



## 所

## 就学おめでとう!

### ～ 新一年生お祝いセレモニー ～



満開の桜に春の訪れを感じる3月29日(水)、なでしこでも小学校へ入学される、はるとさんのお祝いセレモニーが開催されました。当日は天候にも恵まれ、家族と共になでしこ皆でお祝いしました。

「1年生になったら」の入場曲に合わせ、いつもと違う風貌のスー

ツで家族と共に入場した姿は逞しさを感じました。

なでしこに入所してから今までのはるとさんと職員との関わりの様子や家族との写真をスライドショーで鑑賞しました。はるとさんの成長を改めて実感し、施設長や家族からの言葉にはこれまでの様々な思いが伝わり胸が熱くなるものがありました。最後になでしこから、桜をモチーフにした手作りのアルバムと「はじめの一步」という歌のプレゼントをしました。「はじめの一步」という歌は成長の第一歩を表す

歌であり、これからの未来に向けて一歩を踏み出し、共に歩んで行こうという曲でもあります。学校生活に思いを馳せられる、素敵な歌のプレゼントになりました。はるとさん就学おめでとうございます。

(介護主任：川口)



## 児童発達支援事業 修了セレモニー

～ みなさん就学おめでとう ～



3月7日(火)、9日(木)、なでしこ通所棟にて、令和4年度 なでしこ通所 児童発達支援事業修了セレモニーを行いました。今回、児童発達支援事業を修了されたのは、あきほさん、えまさん、けんしんさん、なおきさん、ももかさんの5名です。保育園の行事等で当日参加できない方もみえましたが、いつもとは違う雰囲気を感じ、緊張をしているような表情のみなさん。大好きなおばあちゃんと手を繋ぎ、一步一步しっかりと歩く姿、おしゃれなスーツを着てお母さんと見つめあい嬉しそうな姿、静か

な雰囲気や歌が苦手なのに当日はぐっところえ真剣な表情で参加してくれる姿……すっかり心も体も大きく、たくましくみえました。ご家族からの挨拶では、今までの出来事やお子さんへの思いに胸が熱くなり、涙なしにはいられなかった職員も多くいました。あらためてお子さんへの深い愛情、想いに、日々の私たち職員の関わり、なでしこ通所の在り方を考えさせられました。

利用を開始した当初は、体調を崩し、入退院を繰り返していた事も多く、心配の絶えなかったみなさんがこの4月から小学生になりました。それぞれの場所で、たくさんの人と出会い、お友達を作り、楽しく充実した毎日を過ごせますようになでしこ

より応援しています。

あきほさん、えまさん、けんしんさん、なおきさん、ももかさん、ご家族のみなさん。あらためましてご就学おめでとうございます。

(通所保育士：城山)



## 春だ!外出だ!やっぱり楽しいよね

4月5日(水) 久しぶりになでしこピイに乗り、お出かけをしました。

けいこさんとやすひこさんで、「きつする黒部」へ行きました。なでしこピイに乗ると2人はとても嬉しそうな表情になり、動き出すと窓からの景色を楽しまれていました。

到着するとまずは、鯉の餌やりをするために、売店で鯉の餌を購入しました。2人で仲良く半分こしました。職員が手本を見せると、

すぐに2人とも真似をして上手に池の中にいる鯉に向かい投げることができ、鯉も食べに来てくれ、「お～!」と言うような歓声と笑顔が見られました。

その後きつするの中の商品を見学して、ペットボトルのジュースを購入し、自動販売機でアイスクリームを購入して、なでしこピイの中で楽しくおやつタイム。

大きな口を開けアイスをお口の中

に入れると、「冷たい～」と声をあげるけいこさん。おいしさのあまり勢いよく食べきるやすひこさん。

それぞれが楽しんだお出かけになりました。

(指導員：中村)





## 訪問販売でおいしいケーキ!

伊勢のおいしいケーキ屋さん  
「blossom.」さんがなでしこに来てくれました。  
おいしいおやつを楽しめました♪

## ↑ 所

## 度会特別支援学校 卒業式

### ～ 卒業おめでとう ～



3月9日(木)  
度会特別支援学校  
の卒業式が行  
われ、なでしこ  
からは高等部の  
おうすけさん、  
中学部のさきさん  
の2名が卒業さ  
れました。

さきさんは訪問教育を受けて  
いましたが、この日は学校に行っ  
て、おうすけさんと一緒に卒業式に  
参加することができました。

卒業式では、大きなスクリーン

に子どもたちの笑顔、学校生活の  
様子が映し出されました。そして  
先生と一緒に卒業生ひとりひとりが  
挨拶をしている姿を見ていると、  
保護者や先生方、友達、たくさん  
の人に支えられ成長してきたこと  
を改めて実感しました。

卒業は人生の大切な節目です。  
そこを通過する時には喜びだけで  
なく、周りの人たちに支えられて  
きた感謝の気持ちも忘れずにして  
いきたいものですね。

人生の一つの節目を迎えた2人、

4月からはまた新たなスタートで  
す。なでしこ職員も引き続き協力  
させていただきたいと思っています。  
おうすけさん、さきさん、改  
めてご卒業おめでとうございます!

(指導員：齋田)



第22回全国障害者スポーツ大会「いちご一会とちぎ大会」(以下障スポ)が昨年10月に宇都宮市のカンセキスタジアムで4年ぶりに開催された。

本大会は国内最大の障害者スポーツの祭典であり、開幕の前に高まる競技性やスポーツを通じた社会参加の促進、共生社会の実現など、大会がもたらす意義と取り組みについての記事が、「福祉ニュース障害福祉編(2022年1号)」に掲載されていた。

障スポの選手は一人一人に多様な障害があり、障害の差で有利不利が生まれにくいよう細かなクラス分けが必須となる。区分は陸上が28、水泳が26あり、さらに男女、年齢で細分化される。そのため、出場すれば金という選手は珍しくない。「競技性と公平性の両立はパラスポーツのジレンマ」であり、「何人かの中で取った金と、何億

人の中で取った金は同じ価値なのか」等、こうした指摘は昔からある。ただ、競技性の追求は障スポの一面に過ぎず、大会概要では障害がある人の社会参加の推進を目的としている。障害者と健常者が交流を深め、社会参加の契機としていくことに大きな意義がある。

交通事故で27歳の時に車いす生活となった斎藤さんは、水泳2種目に出場する。水泳を始め、夢や目標、多くの仲間もできた。「水泳が心も豊かにしてくれた」と話す。また、家族にとっても障スポは特別だ。ソフトボール(知的)に初出場する岩立さん(15歳)の父は「思いっきりやってこい」とエールを送る。チームプレーで協調性を養い、ユニフォームやスパイクは自分で洗濯するようになった。父は、夢舞台に出場するわが子の成長を実感している。

勝ち負けだけではない。選手

一人一人の可能性や「社会」を広げていく障スポの価値は、健常者のスポーツにもまして大きい。といった記事である。

この記事を読み、障スポを通して、さまざまな成長があることは間違いなく、障害者が社会参加する上で大きな一助になっていると感じた。障害者自身が交流することで得られることもあるが、健常者にとっても得られるものは大きいのではないか。スポーツだけではなく何か一生懸命取り組む姿には心を動かされ、見ているだけで力を貰えると、私自身までしこのみなさんと関わることで日々実感している。誰もが共に支え合う共生社会の実現を目指して、なでしこでも社会と交流できるイベントの再開を心待ちにしている。

(看護師: 澤井)

毎月発行の「福祉ニュース」に掲載されている記事の中から一つ選び、その内容や感じた事をリレー形式で載せていきます。

## ご本人、ご家族、支援者の不安や悩みがはれまようように

### 三重県医療的ケア児・者相談支援センター はれる和支部

令和3年9月18日に『医療的ケア児及びその家族に対する支援に関する法律(通称 医療的ケア児支援法)』が施行されました。この法律は医療的ケア児を子育てする家族の負担を軽減し、医療的ケア児の発達を支援するとともに、家族の離職防止等が目的と挙げられています。大きな特徴として、施行と同時に中核的な相談窓口が設けられたことです。三重県にも令和4年4月より三重大学医学部附属病院小児・AYAがんトータル

ケアセンターに本部が、そして県内4か所に支部が設置されました。その内の1つ、三重県南部(松阪以南)の支部として、済生会明和病院なでしこに『医療的ケア児・者相談支援センターはれる和支部』が設置されました。

センター支部として、地域共生社会を目指し、将来を見据えながら日常生活・社会生活などを切れ目なく支える支援の在り方を、多職種・多機関連携で考え・実践していくことを目標としています。

主な機能としては“スーパーバイズ機能”があります。これは医療的ケア児・者の支援に携わっている支援者の困りごとや地域の課題などを対象とした機能であり、三重県南部で実践されている関係者と連携しアドバイス等を行っていきます。

医療的ケア児・者やそのご家族からの相談受付の他、支援者等関係者からの相談も受け付けておりますので、安心してご連絡ください。(指導室係長: 青木哲也)

- 本部 / 三重大学医学部附属病院 小児・AYAがんトータルケアセンター  
TEL: 0596-27-7188 受付時間 平日9:00 ~ 16:00
- 三重県南部 / はれる和支部 / 済生会明和病院なでしこ  
TEL: 0596-53-0010 受付時間 平日9:00 ~ 16:00

### ご寄付をお願いいたします

当施設では、皆様からのご寄付を受け付けております。施設に賜りましたご寄付は、当施設の利用者さんの日常がより充実したものになるよう職員一同大切に活用させていただきます。多くの皆様からのご支援を心よりお願い申し上げます。

※本誌に記入されている写真は本人又、家族の了承を得て使用しています。